

事例2：株式会社エムダイヤ（IoT領域におけるオープン・クローズ戦略の構築準備）

ビジネスモデル検討

知財権活用

データ利活用

■ 知的財産経営実践の概要

解決したい課題

新たに開発した製品の販売・展開シナリオを再検討する。

- 業界で類を見ない技術方式のリサイクル機器（基板剥離機）を開発して特許も取得した。
- しかし、リサイクル資源の流通構造や取引価格のさらなる把握を行い、開発した機器の販売・展開の道筋の検証を行う。

専門家によるハンズオン支援

ハンズオン支援

関連するIoTサービスの樹立も通じ、新製品の取引拡大を目指す
訪問支援：3回

- 新製品の販売課題や取組状況について確認（1回目）
- IoTに関する特許の検証と、新たな販売形態を議論（2回目）
- 売買やデータに関する契約を見直すとともに、オープン・クローズの主要論点を整理。（3回目）

結果・成果

IoT領域のオープン・クローズ戦略における主要な論点を確認。様々な事業展開シナリオを議論・検証。

今後の取組課題

- ✓ IoT領域のオープン・クローズ戦略のさらなる前進。
- ✓ 自社の知財を管理・利活用するための社内体制を構築。
- ✓ 自社商品をPRするための技術ブランディングの方策を検討。

■ 取組の詳細

- 基板剥離機の販売拡大を阻む課題の洗い出しを実施。また、IoTモジュールは自社の各種機器と組み合わせて運用できるため、データ面も含めて、各種の知財保護スキームを組み合わせた事業戦略の必要性について議論。
- IoTモジュールを利用することで実現できる、売り切り以外の販売形態について、様々なシナリオを議論したほか、IoTモジュールが秘める特許のポテンシャルについて議論。
- ハード面・ソフト面の特許や、データ、デザイン、ノウハウなど、IoT領域のオープン・クローズ戦略に必要な知財保護の方策について網羅的に確認。

—「もったいない！」をカタチに—
株式会社 エムダイヤ®



■ 企業概要

業種

製造業（環境機械の製造・販売、修理・改造業、リサイクル業）

住所

富山県滑川市

創業

1979年6月

従業員数

10人

資本金

3,600万円

■ 支援専門家（回数）

支援コーディネーター
中小企業診断士（3）
同行専門家
弁理士・弁護士（2）
知財総合支援窓口（3）